

プログラム名		No.11	みのり空間、 里山で初秋の自然と暮らしを体験！	
実施団体		○団体名：ネイチャーヴォイス ○代表者名：平吹 喜彦 ○電話： ○住所： ○E-Mail: yhira@mail.tohoku-gakuin.ac.jp ○FAX:		
対象者		小学3～6年生、中学生、高校生、成人（必要に応じて、保護者や支援者同伴とする）		
対象人数		30人まで（数名からなるグループ制で実施するため、引率者数による）		
学習場所		仙台市泉区根白石 堂所地区（あるいは、水田（谷津田）を含む里山）		
学習時間		5～6時間		
学習時期		9～10月（稲刈りができる時期）		
準備物品・費用等 （講師謝金を除く）		実施団体側	ワークシート、実施要領、名札、地形図や土地利用絵地図（景観図）、バインダー、筆記用具（色鉛筆やマジックインクを含む）、デジタルカメラ、救急箱、防虫スプレー、携帯用蚊取り線香、ライター、のこ鎌、剪定バサミ、ルーペ、双眼鏡、補虫網、たも網、バケツ、各種ビニール袋、図鑑、飲料水、緊急車両	
		利用者側	野外活動の服装（長袖シャツ、長ズボン、帽子、長靴）、雨具、タオル、ティッシュペーパー、リュックサック、軍手（滑り止め付）、筆記用具、昼食、飲み物、着替え、野外学習場所までの交通費、傷害保険料	
事前打ち合わせ		実施の2か月前		
効果的な学習段階		環境学習では、さまざまな領域・段階で導入が可能。また、地域学習やふるさと学習、理科、社会科などの学習内容と関連づけた体験学習としても利用可能。		
学習概要	1. 学習のねらい			
	1）里山の自然や生態系に関心を持つこと。			
	2）里山に息づいている伝統的な暮らしや農業について学ぶこと。			
	3）資源循環型社会のしくみを知り、現代の暮らしを見つめ直すこと。			
	15 陸の豊かさも守ろう 11 住み続けられるまちづくりを 13 気候変動に具体的な対策を 3 すべての人に健康と福祉を 12 つくる責任つかう責任			
	2. 学習する内容		3. 学習のポイント	
	(1) ガイダンス（自己紹介、スケジュールや安全・マナー確認）		  ・提示された土地利用絵地図と眼前に広がる景観とを見比べながら、谷津や水系に沿った土地利用の実態を確認する。 ・泥の感触を確かめたり、水田内の動植物に対する関心を高めながら、日ごろ食べているお米について思いをめぐらすよう促す。	
	・アイスブレイクを兼ねて、自己紹介を行う。			
	・危険回避と活動マナーを確認する。			
	(2) 探求活動			
①里山を見渡す・多様な動植物に触れる				
・地形図や土地利用絵地図から、樹枝状の谷津や水系などの地形的特徴、およびパッチワークのような土地利用景観を確認する。				
・パッチワークのそれぞれに固有の動植物がすみ、絶滅のおそれのある生き物もみられるという説明を聞き、里山の自然に対する関心を高める。				
・稲を刈る水田まで、里山の景観や動植物を観察しながら歩く。				
②稲刈り体験				
・伝統的な稲刈りの進め方について、「稲刈り名人」である農家の方々から指導を受け、のこ鎌を用いた刈り取りと、はせ掛けを行う。				



③郷土料理で昼食

- ・実施地域で収穫された食材を用いた郷土料理を準備する。
- 地域の方を招待して、参加者と一緒に昼食をとり、交流を深める。
- ・稲刈りの感想を発表したり、水田や自然について感じた疑問を地域の方々に尋ねたりする。

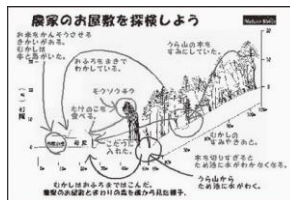
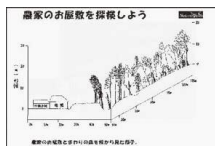


- ・地域の昔話や暮らしのお話をうかがい、伝統的な生活様式を知るためのお屋敷探検活動について興味を高める。

④お屋敷探検

農家の方々の案内のもと、以下のポイントを考慮しながら探検活動を行う。ワークシートに気づいたことを記入する。

- ・背戸山（母屋の背後に位置し、日常的に生活と関わる森や斜面）から湧き出す清水の利活用・背戸山や屋敷林（いぐね）、竹林の樹木の利活用や管理方法
- ・製炭の設備や道具
- ・自家製の農具や日用品など
- ・栽培されている山菜や薬草
- ・馬や牛の役割と農業の変遷
- ・四季それぞれの農作業や行事
- ・野生動植物との触れ合い



- ・ワークシートに、水や生活物資の移動や変容（利活用の実態）を具体的に書き込む。
- ・里山の伝統的な暮らしに関わるさまざまな施設や道具などを見学させていただきながら、資源循環型社会の生活様式について、イメージを深める。

4. 学習のまとめ

- ・参加者全員が車座になった後、土地利用絵地図やワークシートを見返しながら、一連の活動をふり返り、地域の方々に気づきや思いを伝える。次に、全員で以下の3つの活動を行い、学びを総括する。
- ①里山が、多様な動植物と自然環境のパッチワークとから構成されていることを認識する。
- ②稲刈りや郷土料理を思い起こして、お米や野菜が収穫されるまでの伝統的な営みを、農家の方々の苦労や愛情をも考慮しながら整理する。
- ③燃料や建材、山菜、湧水などの多様な資源の存在と利活用の実態を整理し、背戸山と日常生活の強い結びつきから資源循環型の暮らしについて関心を深め、大量消費型の都市生活を客観的に見つめ直す。

追加・変更できる 学習内容	マップづくりや壁新聞づくり、学習発表会といった取り組みに発展させることが可能。また、探求活動を構成するモジュールを分離・再編して実施することも可能。
事前・事後学習に ついての助言	本プログラムの導入に先立って、既往のカリキュラムや学習内容とうまく連携が図られるように配慮いただきたい。また、野外学習の実施を希望する地域を設定済みであれば、そこでの事前調査や学習プログラム再編を支援することも可能。
雨天時の学習内容	野外学習については雨天中止、もしくは延期